

令和4年度 稲美町まち・ひと・しごと創生推進委員会 議事録

1 日 時 令和5年2月24日(金) 13:30～15:30

2 場 所 総合福祉会館 2階集会室

3 出席者

委 員 田端委員長、桃宇副委員長、大西委員、唐木委員、小川委員、秦委員、
名村委員、村上委員、坂本委員、佐藤委員、村下委員、下阪委員

町 長 中山哲郎

事務局 井上勝詞、赤松嘉彦、辻本直都、穴田雄暉

4 会議の概要

① 開 会

- ・事務局より、資料の確認
- ・自己紹介
- ・委員長、副委員長選任

② 町長あいさつ

③ 委員長あいさつ

④ 審議事項

(1) 総合戦略・人口ビジョンの概要について

(2) 令和4年度 稲美町まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン（案）について

- ・事務局より、審議事項について一括で説明

(質疑応答)

委員長：PDCAサイクルの中で、事業の進捗状況を確認することを意味するチェックが重要です。事業進捗を鑑みて、うまくいってなければ計画を変更させていくというのがアクションです。ただし事業については予算の関係上、変更が生じる場合があります。本来であればこの委員会でチェックして次の事業のアクションまでに意見を述べる。本来そこまでしたいのですがどうしてもチェックだけになってしまって、今後の進め方として令和5年の10月から半年間、頑張っ
てねというしか言えないというのがつらいところではあるのですが、どうしてもアクションプランに描かれているような部分は担当課が予算を確保しながらやっているので決まった予算ですとしか言いようがないのがつらいところ。もっと意見を聞くべきだというご意見もわかるのですが、アクションプランのレベルになると予算の関係や国の補正予算がついて、しなければいけないという流れで、その都度、委員会を招集するには難しい。そういった流れで進めているというのをご理解いただいた上で事業内容についてご意見いただきたい。現在のアクシ

アクションプランは令和4年度。現在、2月で今年度はほぼ終わっている事業です。まだ結果はできていないですがほぼ終わっている事業なので、今から何をやるのだと思うかもしれませんが、進め方って色々工夫ができ、新しいアイデアがいただけたらちょっと変わった動きができるかもしれない。今期は申し訳ないところもあるのですが、来年度以降、10月に昨年度の進捗状況をチェックして、当該年度の事業の進捗状況を聞く。あと何をやるかという残り半分で行われることで、こんな工夫ができるよねというのを皆さんにお願いしたい。委員の皆さんの意見を聞いて、もっといい方向があるのではないかと、こういう施策ができるのではないかとこの意見を意見として述べたい。さまざまな議論をしたことは無駄ではありませんので、来年度できなかったことも再来年度できる。2点目、どうやってこのアクションプランをチェックしたらいいのかというのは総合戦略に戻っていただいて、この内容で総合戦略の目標とされていることができるのかというのを見ていただければと思います。

委員：まず、基本的な目標は2060年に2万人にするというのが、数値目標としての大きな目標でよろしいですね。その目標を達成するためにこれだけのアクションプランを出している。日本全体が人口は減っているのは間違いない。稲美町だけ人口が増えていくわけがない。その中で人口を増やしていくための施策だと思うのですが、内容を聞いていく中で、稲美町の出生率が低い、それを極端には上げることはできないけども、人口を増やすためには他から移動してもらう。いかに他の地区から来てもらうかという施策だと解釈した。しがらみのない立場で意見を言いますと、これでは何をやっているのかさっぱりわからない。これだけある施策の中でどれが有効か。特別なものではなく、予算がある事業をいかに消化していくかというそんなイメージを抱いた。近隣の明石、加古川、播磨町の人々が稲美町に移り住みたくなる動機はなんなのか、その考え方で一度進めてもらいたい。明石、加古川、播磨町の人々はなぜその市町に移住するのか、そういう観点でいくと生活の便利さ、交通の便、全てにおいて稲美町より他の方が上かもしれない。けれども、それでも稲美町に移り住みたいという動機づけ。その観点からのプランが私は必要だと思う。そうしないと増えないと思う。極端に言えば、明石市がどんどん増えていく中で稲美町に来てもらいたい。私は何人も明石から来た人、知っています。その人たちに聞くと土地が安い。やっぱり明石では高い。そういうことを活かして住宅取得に補助するとかね。網羅的にするのではなく、重点項目を何点か絞ってそれを集中してやっていくのがいいと思う。例えば17ページのデマンド型乗合タクシーの目標が240回、何の意味があるのかわからない。デマンド型乗合タクシーを周知してもらえば必要な人は使います。必要ではない人は使いません。だから240回使ったからよかった、と他の地区から人が増えたりしません。文句ばかり言って申し訳ないけど、あまりにも私の考えと違うのでね。9ページ、町の成人式の出席率やYouTubeの掲載本数。あそこはYouTubeをよくしているから行こうという人は少ないし、この施策、他の地区もやっていないかといえばこれ以上のことをやっている。同じようなことをしても人は来ませんよ。他とまったく違う稲美町独自の施策をやっていたらわかりますが、ずらずら書いて他の地区とどう違うのか。稲美町はどうしたらいいか、その辺がこの資料をしっかり読ませていただいたけど、これではなかなか難しい。しがらみのない立場からもっと言いたい。

委員長：1点目、出生率をあげるのではなく、社会増をもう少し増やすべきなのではないか。課題は出生率が低いことなので、当然そういう意見もある。稲美町にどうして移住してくるのかという

点。ご質問のあった住宅確保の問題。私もそのように思う。2点目、KPIの基本的な考え方、基本目標を達成するのに役立つのか。2060年に2万人を維持しようという基本目標がある。基本目標を達成するにはどうしたらいいか、このKPIが適切ですかというのがある。デマンド型乗合タクシーの利用回数、おそらく安心して暮らしやすいまちの実現がはかれますよと、そういった意味がある。その240回という回数は適切なのかという満足度や利便性などに使える。事業ベースになるので、なぜというのが皆さんの中にあるのかなと思います。お答えにくいかもしれませんが1点目、出生率を上げるより社会増に重点をおいた方がいい。2点目、こういった目標に合致するようなKPIはあるのか。このあたりどうでしょうか。

事務局：そもそも人口減少の状態で、人口を維持していこうということが目的で間違いありません。資料2のアクションプランの4ページ、目標人口における国勢調査ベースを維持していく、3万人から落ちていくのをなんとか止めていくというのが目的になります。その下にあるのが数値目標、満足度。今は令和2年と令和4年しか載っていませんが、令和4年の新規事業として2年に1度は数値をしっかりと取っていくこととしました。令和5年は無いのですが6年、8年というスパンで数値を取っていこうと考えています。基本は満足度が上がっている、人口が維持できています。その下にありますKPIは満足度につながっているのかというのはあると思います。そこは検証していかないといけない。令和4年度資料、事業として67事業について取り組むことによって満足度や人口を維持していきます。人口の流出を少しでも押さえられるようそういう方向にもっていけるようなそういう事業をKPIに選定しています。

委員長：人口増、社会増のところを考える。町としてはまず社会減を押さえる。そこをちゃんとご説明いただいて社会増を増やしていく、出生率向上というところの優先順位などありますでしょうか。

事務局：平成25年頃から稲美町の人口増加対策プロジェクトチームを立ち上げたりしています。地方創生の流れがきて人口減をどうやって止めていこうという、出生数、死亡数、この数はどうしようもありません。資料1にありましたように、若い世代は出ていっていますが、30代、40代で家を建てる時に稲美町に戻って家を建てています。稲美町の方が一旦出て行って戻ってきています。

委員：学校卒業して外に出て、その人たちが帰ってくるのを期待しているということでしょう。社会増というのは近隣からというよりも、一旦稲美町から出た人が稲美町へ戻ってきてもらう、そのためにYouTubeや同窓会などをしてまた帰ってきてくださいよという。そういったことを目指すということですか。

事務局：そういうことも取り組みの1つであるということです。

事務局：このアクションプランというのは、そもそも我々が考えつくるものをかなりあげているので、ピントがずれているようなところは確かにあるかもしれませんが。ただ少しでも人口増であったり、稲美町に愛着を持っていただけたら、関係する事業を網羅的にあげておりますので、1つ1つあげていくと、この事業は何に関係するののかと思うこともあると思いますが、ご了承いただきたいと思います。人口問題には4つがあります。出生、死亡、転入、転出。死亡に関してはどうしようもないということで。まず、出生の問題、子どもに対する対策は我々、近隣に劣らない事業しております。例えば出生したら5万円、これは近隣市町では無い事業です。高校生まで医療費無料化。最近、新聞を見ていただくと一押し事業ということで、これは先行して

います。次に転入の問題、市街化区域だけでは困りますので土地利用ができるように帰ってきやすいように進めています。土地利用がなるべくできるように基盤づくりも進めています。稲美町は土地が安いといったところで、転出しない施策というのは難しいのですが、稲美町にいかにか愛着をもってもらうか学校など稲美町ややっぱりよかったねという意識を持ってもらい、同窓会事業で転出を防ごうとしています。1つ1つを見ると難しいのですが、こういった形で進めさせていただいています。

委員：施策が悪いといっているわけではなく、私みたいな考えの人もいると町の方もわかっていると思う。町の立場ではできないのかもしれない、予算の問題もある。2060年の時に2万人を下回っていても責任は誰もとらない。こんなこといったら身も蓋もないけどね。

委員長：今回アクションプランに影響を及ぼすことのできるような議論できたらいいのですが、中々難しい。次回以降はお話ができたらと思っています。

委員：私も何度か委員会に参加させていただいて、前町長の時から言っているが、稲美町の強みはというと、出生率は低い子どもがいる。やっぱり皆さん出て行かれたけど、稲美町がいいから帰ってくる。その帰ってくるという気持ち、マインドは大事。マインドを数字や施策でカバーするのはなかなか難しいかもしれないけど。そうやっていかないといけない。しかし、帰ってきたいが場所がない。特別指定区域など居住地が提供できるような環境を一生懸命やってもらいたい。大学に行く時に出て行く、行ったら帰ってこないが多い。しかし、稲美町は阪神地域に近く、まだ職場があるというメリットがある。明石より土地が安い、加古川より土地が安いという利便性、経済的なことも考えてそこら辺を強調して、町として稲美町が住みよい町だということで帰ってきてもらうような環境作りをしてもらえたらいいのではないかな。委員長からアクションプランの開催のことで話があったと思いますが、年1回の開催となりましたら、次また来年となるとなかなか。普通は年度が終わりましたら令和4年度の実績と反省、令和5年度のこうしますというところ。その時に令和4年度の結果に基づいて、よくできたところは目標を修正しようとか、できなかったところはなぜできなかったのだろうと考えて、やめてまた別の事業にしようとかいう話し合いができて、また10月、11月くらいに令和5年の途中経過でその進捗を議論しようというのが一番いい。こういう風になってしまっているからなかなか難しいのだろうけど、今後考えていただきたいと思います。

委員長：ご検討いただけましたらと思います。他、いかがですか。

委員：プレミアム付商品券など、稲美町内でも活性化していると思います。稲美町を住みやすいと感じてくれている人が79%、これはすごい数字じゃないですか。でも、稲美町のPRが少ないのではないかな。もっとPRするにはどうしたらいいかという、稲美町に帰ってくるようにといっても働く場所がなければ給料が入ってこないし生活できない、という中でも大きな企業がたくさんある。しかしこうした大きな企業が加古川とか稲美町にあることを住民は意外と知らない。もっとPRを。稲美町に帰ってきたら、働く場所は多数ありますよというPRを町がする。稲美町の人を採用してくれたら会社に補助を出しますよと、そうしたら企業は稲美町の人を採用します。結構、大きい事業所も稲美町内にはありますので。もう1つが空き家対策、なかなか進捗しない。人が住めるように具体的に会議をしないとなかなか進まないだろうと思います。

委員長：稲美町は住みやすいと思ってくれている人が非常に多いというのは、先ほどから戻ってきてもらえる基盤となる。働く場所についてですが、働く場所はあるけどPRがない。今後、考えてい

かないといけない課題かなと思います。空き家対策ではリフォームとか一部あるのですが、もう少し総合的にできないか。もし、総合的に空き家対策で動いていることがあれば。

事務局：空き家対策についてですが、昨年度、空き家調査したところ 450 軒程度稲美町に空き家があります。市街化調整区域で空き家の数が多い、市街化調整区域の空き家をなんとか活用するために規制の緩和、これしかないのかなというところで、特別指定区域等を指定していますが、なかなか難しく徐々に進んでいくという状況になります。空き家対策は今後も続けていかないといけないものになりますので、検討の方はしていくということは必要かなと思っております。

委員長：他にご意見あれば、稲美町は、農業を重視しているというところでなにか。

委員：昔、稲美町は基幹産業が農業と言われていたのですが、最近まったく聞かなくなった。それから、個人の農家のお助けなどを何か考えていただきたいな。特に高齢化、65 歳以上の方が 80% か 70%、それぐらいの段階になってきている。人数が減ってきている。ただ、若い方は施設を建てて立派に経営やっておられるので、そのあたりは問題はないかなと思いますが、零細農家の手助けしてあげられるようなものがないかなと思います。それと稲美町の情報ということで、にじいろふぁ～みんのところの情報発信室があるのですが、その DVD がいっこうに変わっていない。亡くなった方もビデオに出ているので、あれなんとか変えてほしいなど、その辺稲美町は力入っているのかなと感じてしまう。

委員長：PR の問題ということになりますが、他の委員どうですか？

委員：施策のイメージがわきにくい。例えばデマンド型乗合タクシーの利用回数 240 回、240 回利用されるというのは具体的にどんな状況なのですか。例えば 240 回を 30 日で割ると、だいたい 7 回ちょっと。7 回ちょっと利用できるというのはどんなことなのか。例えば、どこそこのバス路線が廃止されているけど、そこからどうなのか。具体的なイメージがわくような、我々報道機関の観点からすると、デマンド型乗合タクシーが本格化するということを新聞に載せていたけど、仮に令和 8 年度には 240 回目指しますと書いたときに、240 回はどんなイメージになるでしょう。どれだけ便利になるのかと具体的なイメージをもって語っていただけないかなと思ひまして、やっぱりそうじゃないと施策の羅列だけで何の特徴もない。議論を聞いていて施策を実現したら具体的にどうなっていくのかともっと夢を語りあったらいいのではないかな。ですから、我々の会社の記者が行った時に質問があると思うのですが、具体的にイメージを語ってもらえたら、記事も書きやすくなると思いますし、そういう風に思いました。

委員長：ありがとうございます。これをやったらどうなるというところをやはり住民に見えないと頑張ろうという気にならない。それによって本当に人口を維持できるのかという。町として何か考えがあれば、デマンド型乗合タクシーだけでなく、こういうイメージをつくっています、というのがあればお話ください。

町長：お話を聞かせていただいているのですが、町として何が届いたらわかりやすいかなと色々考えてはいたのですが、商店というかスーパーみたいなものかなと思っていました。行政、幅広い商品を扱っているのがこんなものがほしいあんなものがほしい、一応全て揃えておかないと。ただ同じ物を売っていてもなかなか難しい。そんな中でスーパーさんも特売日だったり、新しいものを売ったりするわけで、我々も特色をつけてはいるのですが、それが本当に良い商品であるか具体的にお示しできるように説明する力というのが、ご理解いただけないところがあったと思います。それは我々の説明不足だと思います。空き家対策も色々やっているのですが、実

績が少ない。商品は売っているのに買っていただけない。それは説明不足や住民のニーズにマッチしていないところがありましたので、委員会の進め方や事業の進め方もしっかりわかりやすい形でまた提供できたらなと思っております。

委員長：マーケティングの部分もあって、町長がおっしゃったようにスーパーでは商品を売るときにレシピも提供する。こんな商品を使ってこんな料理ができますよというイメージ化。町長の考えとも合うのかなと。

委員：はじめて何う話ばかりでしたので、一番考えなくてはいけないこととしては、稲美町どうやって人口を増やすか。日本全体が人口減少、年間 50 万人減っている。なので、すべての市町村の人口が増加するということはある得ない。全国の市町村が人口を増やそうと努力しているけど減るところは減る。減りゆく人口をどうやって増やすか、非常に厳しい。もし本気で勝つということを考えるのであれば、負けるところをつくらないといけない、そういう厳しい状況。ここからは人を引っ張ってくるターゲットを定めて、そこに働きかけていかないと難しい。どこにいる人たちを呼び込むのかを考えないといけないと思う。そういう意味では、転入転出のデータを使ってどこから来ているのかどこに出ているのかが重要だと思う。お話を聞いているとベッドタウンとしての機能に魅力を感じて入ってくる人が多いのなら、ベッドタウンとしての機能を充実させる。そうすると働く場所とはならないが、転入先として選ばれるときにどこに力を入れるか。やっぱりターゲットとの関係でどうやって人口減少グループに入らないようにするか。全員がハッピーになることはない。人口増加を目指すということを考えるのであれば、勝ち負けがはっきり出る。自分たちが勝つということは負けを作る。それを公に考えるのは難しいのかもしれないが、そう考えていく。

委員長：人口減少を前提としてやっているところもあるので、そこはまた違った議論ができると思います。人口を増やすことをやらないといけない、維持することをやらないといけないので、どうしても勝ち負けがでてきてしまう。

事務局：補足資料 1 の 22 ページ、通勤通学の資料。稲美町から東京へ一極集中とありますが、何百人、何千人いつているかというところではなくて数十人という話です。実際に一番多いのは近隣の神戸市、加古川市、明石市、播磨町、姫路市が多く、近くでの移動が多い。神戸の方に大学や就職で行くなどあるのですが、家を建てるときに稲美町を選んでもらえているという状況。そういう説明になります。

委員：さきほど、明石に比べて土地が稲美町は安いといいましたが、稲美町が一番安いかというところじゃなくて、加東市や西脇はもっと安い。加東市は関係ないかというところじゃない。東播磨道ができています。自動車道ができることで稲美町、加古川、三木、小野、加東市が短縮されて通勤が早くなる。そうすると土地が安いから稲美町へいこうというのが、土地が安いから加東市にいこうとなってくる。加東市から加古川へいくにしても短縮されているし、有料道路ではない。そういった面も考えて、ある意味加東市も稲美町から見ると敵になる。そういう観点も必要だと思います。

委員長：通勤、通学のコストが下がるところがターゲットなんじゃないかと。違う観点からなにかあれば。

委員：施策も早くやる必要があると思います。令和 4 年度、私の住んでいる地域の人が 14、15 人亡くなられて、それに対して増えたのは 1 人。そうすると空き家が増えてきたりしまして。今まで

人口が減るとというのは周りで感じてこなかったのですが、これはもうはやく手を打たないといけないと思いました。近所には、適齢期の子供さんがいっぱいいる。親の所で一緒に暮らしています。そうした地元の子供たちが結婚してくれれば、子どももできるし配偶者も来るわけですから、連れていかれるかもしれませんが人口が増えるわけですから。そちらの方ももう少し力をいれて、昔は仲人さんがいたが、今はないし親も勧めるということはない事情なので、何か出会いの場をつくってあげてほしい。

委員長：日本全体を通して見て、日本の場合、結婚したご夫婦から生まれるケースが多い。それをどう変えていくかという点とまた別の議論になってくるのですが、例えば婚外子をしっかり認める。結婚しなくても子供が産めて育てられますというものをつくっていきましょうというのがあります。急いでほしい気持ちはわかります。子どもの声が聞こえてこなくなってくると、段々その地域で子育てしようというのが減ってきてしまう。なぜいま住宅地をつくるのかというと、同じような世代が複数いないと孤立してしまう。お手伝いしますよという高齢者のグループがあるのですが、同じような世代の人たちと交流したいというのがある。

委員：菊徳地区はあつという間に沢山増えている。私の地区も特別指定区域で2年間くらい色々骨をおって指定したのですが、実際それが動くかといえば動きそうではないし、もう減る一方かなという地域です。

委員：資料2の15ページ、20番、ボランティアの担当をさせていただいているのですが、こちらの方も新規の登録が少なく高齢化している状況です。たまに学生さんが登録してくださるとありがたいと思い、1回だけかなと思っていたら続けて清掃活動にきてくださる方もあったりして、昔は近隣の高校の学生さんも来てくれていたのですが、本当に少なくなったと感じます。ボランティアも少なくなっている中で学校が取り組んでいる地域と保護者の方、住民の方を進めていっている事業が年度を追うごとに拡大しているんだというのがわかるのですが、今年度どういう風に取り組んでいたのか、来年度このように進めますというのがわかれば少し教えていただけたらと思います。

委員長：コミュニティスクールについて、ご回答をお願いします。

事務局：細かいところまでわからないのですが、コミュニティスクールに関しては同じような形で進んでいると思います。全小学校、中学校で進めている状況ですので、清掃活動等が主になってくると思いますが、どのように展開していくかというのはそれぞれ各団体で進めていっていると思われます。また、地域への移行としまして部活動もそういったところを今からどんどん国をあげてやっていくとなっているので、我々もそれに乗り遅れないように来年度やっというところなんです。

委員長：今、地域で学校を支えると言われていたが、逆もある。学校がどのくらい地域に関わっていくのか、子どもたちが地域に関わっていくのもあるよねというので、もっと近づいてもいいのかなと思います。トライやるということで、働くところに中学生が出ていくというのがありますが、これを地域に延長してもいいのではないかと、働く場に行くだけではなく地域活動に行くという話もある。高齢者施設に行くのではなくて、地域の皆さんと高齢者のところに行くとか。そういうのもおもしろいのではないかと。地域で学校を支えるだけでなく、学校で地域を支えるというイメージを出したらと思います。意外と稲美町の学校おもしろいね、となると人口増加にもつながる。

委員：稲美町の誇り、ブランドというところで、稲美町だったら何がある。稲美町はこういう会社がある。私も金融機関で地域をまわり、工場ですごい量を製造されているとか、目立たないのですが日本で3つしかない機械があり特許を持ってされているとか、そういった企業さんが意外とあるというのがわかりました。限られた予算の中で強みを活かして何をするか。人口問題でも、かなり相続の手続きに来られていて、残念ながら町の外、阪神間や東京の方のご遺族の方が大半です。お家どうなさるのですかと聞くと、仏壇があるし、半年に1回家が荒れるので掃除だけ大阪から帰ってこないといけないと切実なことを聞く。土地利用規制とか仏壇などどうするという問題があって、空き家バンクが1件の活用というのは良いのか悪いのかわからないのですが、他に活用できる手段はないものかとか、そういったことを考えていただいて、町の予算が莫大にあるわけではないので、計画をたててやって、11月にしっかりその結果をもって、意見を出していけたらと思います。金融機関で気になるところは、町のPRのことで、しっかりとした町のポスターを作られているのになかなか貼るところがないということで、銀行の壁とかに置かしていただいているが、稲美町がPR下手というわけではないが、他の方が稲美ってどこ、稲美ってなにがあるの、って聞かれるのはさみしい部分があるので、いいお店がいっぱいあるのもっと外に発信できるような予算を色々していただきたい。金融機関としましては、企業に積極的に融資していきます。ただ土地利用の規制が非常に厳しいので、広げたくても広げられない。企業も広げたくても田や水路だし、2、3年かかるのだったらもう他の産業団地に移ろうかとなってしまいます。最近も大きなところが動いた。県の権限ですが、なんとか稲美町でやっていってもらえたらと思います。

委員長：稲美町のPRの話とせつかくの財産を活用できない。空き家問題は重要ですよということ。

委員：価格競争になったら明石から移ってきているのは、稲美町の方が明石より土地が安いからで、それに魅力があるのかなと。あと空き家対策、今は1件しか実績があがってきていませんので、これは増やしていかないといけない。我々も空き家を活用し、まちづくりみたいなことを来年度、明石高専とやっていこうとしている。兵庫大学と協力いたしましてため池をつかったウェディングを昨年度はじめまして、結婚式の楽しさや価値を知っていただいて、独身の方が非常に多いので結婚の意識の醸成につながると思うので、稲美町の助成をいただいて、結婚式の楽しさと稲美町のすばらしさをアピールするのも1つかなと。あと、コウノトリという仲人さんがいる。親身にやってくださっているが年間20人を相手するのが精一杯なので、増やしていくしかないのかなと思います。稲美町非常に楽しいことをやっているよということを見せながら、稲美町の発展にどんどんつなげていく。みなさん急がれていると思うのですが、1つ1つ施策をしっかり進めていくしかないのかなと思います。

- ⑤ その他
- ・特になし

- ⑥ 閉会

副委員長：今日は、貴重な意見ありがとうございます。これくらい意見を述べないと、町の推進はできないと思います。私も1点ありまして、会議が年1回ではうまくいかないと思いますので検討よ

ろしくお願いします。以上で終了いたします。